

小・中学生の医療費
無償化の効果は？

問

平年28年10月から実施している小・中学生の医療費無償化について、令和2年度及び3年度の実績はどうなっているのか。

また、事業実施による効果をどのように認識しているのか。

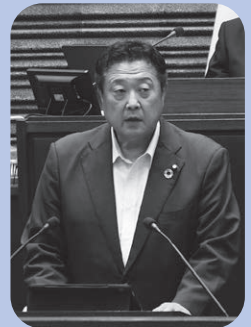
答

小・中学生への医療費無償化の実績は、令和2年度は対象者数が月平均7千747人、年間助成費が約2億3千170万円で、1人当たり年間約3万円。令和3年度は対象者数が月平均7千682人、年間助成費が約2億4千360万円で、1人当たり年間約3万2千円の助成となっている。

事業効果としては、経済的な事情によらず医療が受けられることで、疾病の早期発見と治療が促進され、子どもの保健の向上と福祉の増進が図られている。

また、子育て世代の負担の軽減が図られており、一定の評価をいただいていると認識している。

三好和彦議員



(二般質問)

1 コロナ禍における救急業務について

2 化学物質過敏症に対する周知・啓発活動について

変化するコロナ情勢

救急業務の対応は？

問

今夏は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大や熱中症の疑いがある患者の増加により、救急車の出動件数が増え、救急現場の逼迫を伝えるメディア報道を目にするようになった。

そのような中、本市において本年8月18日より日勤救急隊の運用を開始したことで、緊急性の高い傷病者の搬送体制の構築や現場スタッフの負担軽減が期待されているが、導入に至った経緯と、活動の

概要はどのようなものか。

また、再び新型コロナウイルス感染症による感染の波が襲来した際にも、日勤救急隊の早急な対応が求められる。急速に変化する新型コロナウイルス感染症の情勢に対応するため、今後も行政と医療機関などの連携が不可欠であると考えられるが、よりよい救急業務の遂行に向け、更なる質の向上のための取組や関係機関との協力体制について、どのように考えているのか。

答

本市における本年の救急出動件数は、合併以降最多を記録した令和3年を上回るペースで推移している。今夏は熱中症搬送に加え、感染第7波到来による救急出動件数の急激な増加により、緊急性の高い傷病者に対し最寄りの救急車が出動できないケースや救急活動時間の延長などから、市民サービスに影響を及ぼす状況が危惧されると判断し、日中における救急体制の強化を目的として、消防本部職員による日勤救急隊を創設した。

対応業務は、保健所からの要請に基づくコロナ陽性者の移送業務や自宅療養中の陽性者からの119番通報による出動など、コロナ対応に特化したものとしている。日勤救急隊出動時には、消防署や出張所の救急隊は緊急性の高い救急事案に備えることができ、市民サービスの低下を防ぐ対応が実施できていると認識している。

新型コロナウイルス感染症への救急対応については、保健所・医師会・医療機関などと連携を強化し、状況に応じた救急医療体制の構築に努めてきた。

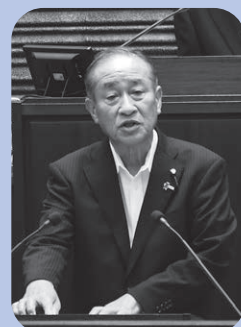
今後も、関係機関との連携を密にし、真に救急車を必要とする全ての傷病者に高い水準での救急体制を提供できるように邁進していきたい。



高い水準での救急体制の提供を

自民クラブ

井上浩二議員



(二般質問)

1 小松中央公園グラウンドゴルフ場について

2 資源ごみ集積場の設置について

再整備により全面利用を！

問

いのししの出没により荒れた小松中央公園グラウンドゴルフ場の芝生を復旧しないのか。

また、いのししに対する防護柵の強化について、どのように考えているのか。

更に、グラウンドゴルフ場の内の桜が枝や葉を茂らせ、芝生が枯れている箇所が見受けられるが、効果的な剪定をどのように行っていくのか。